



「道の駅みぶ」の活性化

20班 コミュニティデザイン学科 阿部遥香 臼井彩乃
建築都市デザイン学科 今村圭佑 小田響 小野琴弓
社会基盤デザイン学科 大内一輝 畠山翠羽
グループ指導教員 横尾昇剛

壬生町 道の駅みぶ

地域パートナー：壬生町役場 商工観光課様

1. 背景

「道の駅みぶ」は、みぶハイウェーパーク、とちぎわんぱく公園、壬生町おもちゃ博物館、壬生町総合公園の4施設で構成される大きな道の駅である。特に、みぶハイウェーパークは高速道路と一般道の両方からアクセス可能であり、休憩施設としても好立地にある。一方で、**売上単価が低いこと、滞在時間が短いこと、リピート率が低いこと、他施設とみぶハイウェーパーク間の人の往来が少ないこと**などが課題である。そこで、壬生町の地域資源である**いちごを使った商品の開発、各施設間の人の流れを増やすこと**を壬生町役場様からご提示いただいた。

2. 目的に至る調査

独自の調査シートを作成し、商品調査と建築的な観点から現地調査を実施。以下の問題点が見えた。

商品面：**目玉商品がない、限定感のある商品を活かしきれていない**
建築面：**休憩室に入る人がほとんどいない**

4. 方法

(1)おもちゃ博物館インタビュー(2023/10/24)

親子で楽しめるスイーツを作るためにおもちゃ博物館に訪れた親子にインタビューを実施。意見をもとに3つの案を作成した。



3. 目的

ハイウェーパークの**休憩室改善**によりお客様の滞在時間を伸ばし、売上単価を向上させる。また、**親子で楽しめるいちごを使ったスイーツの開発**により、道の駅みぶの新たな目玉商品を生むことでおもちゃ博物館やわんぱく公園との親子の往来を増やす。



◎滞在時間の延長と、他施設からの人の往来増加を目指す

(2)改善のための試作と実施

①試食会の実施(2023/12/19)

・3つの案をもとにレシピを考案し、試食品を作る。また、独自の評価シートを作成した。
☞壬生町役場の方々や宇大生に実際に食べてもらい商品に対する8項目で**5段階評価**をもらった。

形状 風味
色 酸味
大きさ 甘さ
香り 食べやすさ

②休憩室のレイアウト変更(2023/12/26)

・おもちゃのショーケースが壁沿いに並んでおり目に留まりづらい
☞ショーケースを中央に配置
・大テーブルしかなく少人数での利用がづらい
☞少人数でも使いやすい配置に変更
カウンターテーブルを設置



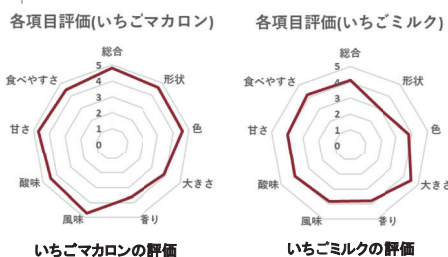
5. 分析結果

(1)休憩室



休憩室のレイアウト変更により、奥の少人数スペースは夫婦や高齢者の利用が多く、落ち着いた空間となっていることが分かった。逆に、手前のテーブルは家族での利用が多かった。おもちゃを中央に配置し様々な方向から見られるようにしたことで、子どもたちがはしゃぎながら機関車のおもちゃで遊ぶ様子や大人がじっくりショーケースを鑑賞する様子が見られた。また、一度休憩室を離れた後にソフトクリームを買って戻ってくる家族が何組か見受けられ、**休憩室の居心地の良さが滞在時間や売上単価の増加に繋がっているのではないかと考えた。**

(2)試食会



6. 提案

今後、12月の試食会で得た意見をもとにレシピを練り直して、**道の駅みぶの来場者にも商品を試食してもらおう機会**を作る。その際は、地域の農家の方と連携し壬生産のいちごを使用する。

さらに商品案を改善していく

最終的に道の駅みぶでの販売を目指す！



また製品に加えて、**価格やプロモーション方法、商品を売り出す場所のイメージ、商品を手にとった人にどう感じて欲しいかなど**も併せて検討していく必要がある。次年度以降もこのプロジェクトが継続されるとのことなので、私たちがどこまで携わり、どこから次年度生に引き継いでもらうのか今後話し合っていく。

壬生町役場・宇大生計15名に評価を取ったところどちらも**高い評価**だった。

いちごマカロン: 案として非常に魅力的。手作りだとどれくらいの量産が可能なのか。香りが薄いと感じた。

いちごミルク: 莓の味わいが抜群である、香りもよい。3種類(とちおとめ・とちあいか・スカイベリ)でも色や味が違っておもしろい。